定例市長記者会見録

日　時：12 月 25 日(月)　午前 11 時～11 時 30 分
場　所：本庁舎６階　特別会議室
出席者：一 宮 市　中野市長、福井副市長、山田副市長
　　報道機関　中日新聞、朝日新聞、読売新聞、中部経済新聞、共同通信社

本日の案件は四つです。

1 番目は「犯罪被害者等見舞金制度の創設について」です。

これは市議会の 12 月定例会で議案として提出し､先月の記者会見でも紹介したものです。12 月 21 日に定例会が閉会し、一宮市犯罪被害者等支援条例という新しい条例が制定され、早速運用が始まります。

愛知県では令和 3 年から同様の制度が始まっており、それに上乗せする形で市からも見舞金をお支払いします。対象となる犯罪行為は、条例を施行した 12 月 21 日以降に発生した犯罪です。残念なことですが、愛知県の実績を見ると一宮市内では制度の対象となる事案が年間 1・2 件ほど出ると考えています。

公平・公正・平等である行政サービスにおいて、こうした条例を制定することで法的な裏付けができますので、被害に遭われた方に対して、手続きのワンストップ化や市営住宅などで身を隠したいというような申し出への対応など、できるだけ手厚く、手続きの特別な扱いができるようになります。制度の対象となる事案がないことが望ましいのですが、万一こうした事態が発生したときのために、被害者の方に寄り添った対応ができればと考えています。

2 番目は「志民連いちのみやと一宮市が「手づくり郷土賞」を受賞」です。

特定非営利活動法人 志民連いちのみやと一宮市が共同で、国土交通大臣表彰を受けました。全国から応募があった 35 件の中から選定された 15 件の一つに、この「手づくり文化の発信から公共地の官民連携活用へ」が選ばれました。

志民連いちのみやは、代表である星野博さんが中心となって 2001 年から毎年 5 月の大型連休に“杜の宮市（もりのみやいち)”というイベントを開催しています。コロナ禍で中止することもあり、今年が 21 回目になりましたが、最近では出展ブースが約 380 件で、来場者数も 3 万人以上を数え、七夕まつりと並ぶぐらいの賑わいを見せているイベントとなっています。杜の宮市は、“手作り”をテーマにしていますので、工芸品やアクセサリー、食べ物など手作りをテーマに大変な賑わいをみせており、市としても会場の使用などでずっと協力をしてきました。

12 月 23 日（土）に東京で記念発表会がありました。認定授与式は 2 月上旬に行われる予定ですので、その際には取り上げていただければありがたいと思います。こうしたイベントが、年に一度の七夕まつりや年始の初詣の時期だけでなく、できるだけいろいろな時期に、

まちなか、真清田神社やその前の商店街が賑わうように、志民連いちのみやの皆さんには協力してもらっていますが、この度、国土交通省からも表彰を受けたということで、市としても誇らしいことだと思います。

3番目は「おりもの感謝祭一宮七夕まつり「学生サポーター」の募集について」です。

かつては、“ミス七夕・ミス織物”という名称で未婚の女性を対象にしていましたが、時代の潮流にあわせて“学生サポーター”に形を変えて若い皆さんにご協力をいただいています。

今回は3期生として2月25日（日）までの募集ですが、冬休み時期にも学生サポーターへの参加を考えていただきたいということで早めに募集を呼びかけます。

過去の実績としては、フォトスポットなど七夕まつりの企画や運営にご協力いただいていますが、11月に実施したBISHU FES.のときも、この学生サポーターの皆さんに協力していただきました。いろいろな活躍の場がありますので、ぜひご応募いただきたいと思います。

4番目は「『BISHU FES.』今年の振り返りと来年に向けて」です。

12月19日（火）にBISHU FES.の実行委員会がありました。関係者が集まり、先月開催したBISHU FES.の反省とこれからどうしていこうかという話をしました。まだ数字で確定できてないところはありますが、おおよその振り返りはできたのではないかと思っています。

11月11日・12日の土・日曜日の2日間実施し、4万人近くの来場者がありました。インターネットの視聴者も延べ5万人近く、アーカイブ配信でも現在7万人近くのアクセスがあるという状況となっています。

良かった点は、狙い通りに開催できたことです。アフターコロナで地域を元気にするために、地場産業に絡めて繊維を中心にこの地域の魅力を発信すること、中でも尾張地域・尾州というブランディングが必要だと思っています。尾州は、デパートに行くような高齢の男性にはある程度ブランディングはできていますが、やはり女性や若者に弱いという話が多くありましたので、そこをTGC（東京ガールズコレクション）と組むことで、効果的な発信ができたと考えています。

今回ありがたいことに、各新聞社様や主要メディアの皆さまにも取り上げていただき、NHKさんでも全国放送で2回ほど取り上げていただきました。ネット配信で若者や女性に知っていただくことを狙っていましたが、このBISHU FES. TGCの取り組みが多くのメディアに取り上げられたことによって、予想以上に幅広い層に愛知県一宮市が頑張っているところを広められたと思います。

反省・改善点は、もっと積極的に踏み込んでもよかったかなと感じています。どうしてもTGCということで、この地域では10年ほど前にナゴヤドームで実施した際には約4万人の来場者でしたので、今回も数万人が押し寄せて来る、また11月のハロウィンの時期ということもあり身構えて、雑踏警備などのブレーキを踏む発想が多かったと思います。今回は真清田神社が会場ということで収容者数も 1,000 人ほどということもあって、もっと商店街

の方に来場者を呼び寄せるような仕掛けを、ブースやコンテンツで設定してもよかったと思っています。これは、やってみないと分からない面もあり、やむを得ないところもありましたが、ブレーキだけではなくもっとアクセルを踏んでよかったというところが大きな反省点として挙げられます。

今年は企業の協賛金が 6,000 万円を超え、全体のイベントの規模としては 1 億円を超える大イベントでした。来年以降は企業の協賛金が今年同様には見込めず、市としてもそこまでは出せませんので、イベントを今年のようにはできませんが、お金を使わない分、何とか知恵を使って続けていきたいと考えています。

おかげさまでブランディング面では、一宮市が繊維・ファッションの街ということを大きく発信することができたと思いますので、それを使ってイベントを継続していきたいと思っています。一つの例が一宮七夕まつりで、私が市長に就任した 2015 年にダンスコンテストが始まりました。2016 年に一宮七夕まつりのメインゲストで EXILE の USA さんと TETSUYA さんが、2017 年には、お二人に加え Dream の Shizuka さんが来られて、これまでダンスに力を入れてきました。そうしたことから、七夕まつり・一宮のダンスコンテストは、なんかすごくレベルが高いぞ、と好印象でずっとこれまでも続いています。そうしたレガシーを BISHU FES.においても、2023 年に TGC と組んで実施し、一宮の秋は何かおしゃれなイベントがあるよね、ということで、来年以降大きいお金は使えませんが、うまく続けて繋げていきたいなというのが、私だけでなく実行委員会メンバーの思いです。

以上、本日の説明でございます。

質疑応答の概要

■『BISHU FES.』今年の振り返りと来年に向けて

（記者）3 年間継続する事業として、今後 TGC とは一緒にできない中で、どのようなことをやっていこうと思っていますか？

（市長）来年、再来年も BISHU FES.を開催します。10 月か 11 月の週末にまちなかを使った繊維産業を中心とした地域の魅力を発信するイベントを考えています。

今回のイベントを契機に TGC を運営している(株)W TOKYO さんとの太いパイプができたと考えています。来年以降は、(株)W TOKYO さんに審査員やモデルさんを派遣してもらうなどのつながり方はあるだろうと思います。

（記者）プロのモデルというよりは、学生さんなどによるファッションショーをやるというイメージでしょうか？

（市長）初回が TGC というトップレベルのファッションショーでしたが、今後は市民参加型や手作りで市民の皆さんに楽しんでもらえるような舞台を増やしていくという方向性だろうと思っています。

（記者）経済効果については？

(職員) 2月末頃にコンサルティング会社から分析結果が出る予定です。

(市長) 来場者数やいろいろな数字は出ていますが、経済効果にどう関連付けるかというところは、専門家の意見を聞くことにしています。例えば、11 月に実施したキャッシュレス決済ポイント還元キャンペーンでは過去最高の決済額で、1 か月間で 35 億円ほどの利用がありました。昨年に比べ約 10 億円の増加ですが、BISHU FES.の開催日付近での電子決済の利用状況の数字などを使ってしっかりとした検証ができるのではと考えています。

(記者) 経済効果以外の検証は行われますか？例えば、イベントへの公金の使われ方に関する検証は？

(市長) 市の予算の使い道としては、決算審査で市議会に諮りますし、包括外部監査の制度などもあり、そうした行政の踏むべき手順を踏んでいろいろなご意見をいただくことになります。

　公金については、市から約 3,000 万円、国などから約 2,000 万円　計約 5,000 万円です。

(記者) (株)W TOKYO さん側への負担金が約 5,000 万円ということですか？

(市長) 市から約 2,000 万円、国などから約 2,000 万円　計約 4,000 万円を(株)W TOKYO さん側(東京ガールズコレクション実行委員会)に負担金として支払っています。市からの残り約 1,000 万円は、一宮駅や銀座通りでの一宮市独自コンテンツに使用しています。

(記者) 今のところ支出については問題ないということですか？

(市長) そうですね。相場感では、他の自治体と比べて金額が突出しているわけでも少なすぎるわけでもないと見ています。

(記者) 市内の繊維産業・地場産業に対する注目度は高まりましたか？

(市長) 尾張の国「尾州」の認知度は格段に高まったので、そこについては評価をいただいています。トップレベルのところで尾州の発信ができましたが、身近にすぐそこで売り買いできる場があるといいねという提案もいただいています。地場の企業さんによる商売に近い形で来年以降やっていきたいというご意見もあり、その方向で考えましょうというやり取りを始めています。

(記者) 来年以降の BISHU FES.は、一宮駅周辺で開催する予定ですか？例えばサテライト会場での開催などの構想はありますか？

(市長) 本町商店街や銀座通りなど一宮駅周辺のまちなかでの開催を考えています。サテライト会場については、過去に一宮七夕まつりで実施したこともありましたが、盛り上がりに欠けたため 5 年くらい前に止めました。

(記者) 例えば、せんい団地やそれぞれの工場、FDC での開催の可能性は？

(市長) 確かに、BISHU FES.は繊維というしっかりしたテーマがありますから、関連施設での開催はありそうですね。貴重なご提案として承りました。

■その他

（記者）スマートインターチェンジに関して、周辺の開発の方向性をお聞かせください。

（市長）基本的にはスマートインターチェンジのみならず、2 年前にできた一宮稲沢北インターチェンジの南側を見ても、周辺の土地利用の在り方を変えていくことは、当然の方向性だと思います。2024 年問題もあり物流業界を進化させていかなければいけない中で、新しく倉庫やロジスティクスセンターを作りたいという引き合いが多く、産業拠点として物流が注目されるのは自然な流れだと思います。ただ、もちろん土地所有者の皆さんや地域の皆さんがどう考えるかが一番大事だと考えます。市としては土地利用の見直しの中で、ニーズに沿って見直しを進めるときに必要な助言をしますし、障害となる規制などがあれば相談に乗ります。世の中のニーズを見ながら、この地域も含めて経済全体が良くなるように行政を進めています。